

第4回 第2期岡崎市スポーツ推進計画策定委員会 議事録

日 時：令和2年2月18日（水） 9：30～10：40

場 所：岡崎市役所 東庁舎7階 701会議室

出席者：（委 員）堀越哲美委員（会長）、上原三十三委員、三井政昭委員、杉山まゆみ委員、土赤光宏委員

（事務局）社会文化部 河内部長、スポーツ振興課 鍋田課長、山田副課長、大竹係長、音羽係長、稲吉係長、小川主査、野田主査、西田事務員
一般社団法人地域問題研究所 押谷主任研究員

欠席者：（委 員）廣美里委員

傍聴者：なし

資 料：次第

資料1 関係団体ヒアリングの結果概要について

資料2 スポーツ推進計画期間延長版（案）

資料3 第2期岡崎市スポーツ推進計画（案）

資料4 第2期計画における検討テーマについて

次 第

1．あいさつ

堀越会長（内容省略）

河内部長（内容省略）

2．議題

（1）報告事項

関係団体ヒアリングの結果概要について（資料1）

- ・事務局より資料1を説明。

堀越会長 ・障がい者スポーツに関係するコメントが2団体からあったようであるが、その他の団体でこの点について何かコメントはなかったか。

事 務 局 ・2団体以外、特段発言はなかった。

上原委員 ・ヒアリング結果に対する意見というより、今後の施策に関わることであるが、障がい者は意見を強く発信できる場がないと思われるので、念頭に置いておかないといけない。

三井委員 ・以前、岡崎市民活性化本部で働いていた方が、スポーツを通してまちを活性化させたいと話しておられた。その関係でFCマルヤスが城西高校と練習試合を予定していると聞いた。

事 務 局 ・その方は、現在、観光協会で働いておられる。観光協会のヒアリング相手はまさしくその方である。

三井委員 ・FCマルヤスのような取組を広げていくと何か出てくるかもしれない。思わぬところでスポーツによるまちの活性化を図っているところがあると感じた。

- 杉山委員 ・多くの団体にヒアリングされた。スポーツが関係する分野は非常に範囲が広いと改めて感じた。
- ・ヒアリング結果をみると、実に様々な方々がスポーツの推進に対して強く関心を持っていたことがわかった。
- 堀越会長 ・スポーツ振興に関して、企業も非常に積極的であることがわかる。

(2) 審議事項（意見交換）

スポーツ推進計画 計画期間延長版について（資料２）

- ・事務局より資料２を説明。

- 堀越会長 ・期間延長に伴う計画期間等の修正、ならびに東京オリンピック関連の内容など主要事項を少し加えている。これを延長計画としてお認めいただくことでよろしいですか。
- （意見なし）
- ・意見はないようですので、延長計画として了承することとしたい。

第２期岡崎市スポーツ推進計画（案）（資料３）

- ・事務局より資料３を説明。

- 堀越会長 ・資料３は、前回の委員会でお示した基本方針に基づいて、文章化した資料となる。資料３の内容については、後日確認していただいて事務局にお伝えすることでもかまわない。
- ・スローガンの部分については、何か良い案があればお示しいただきたい。
- 事務局 ・第１期計画では、計画の基本理念を「スポーツでつなぎ、育む いきいきげんき 岡崎」としてきた。新しい計画のスローガン・基本方針を考えたい。
- ・施策の部分で共有した上で、次回には案を示したいと思っている。
- ・イメージとしては、計画のサブタイトルになるようなもの、あるいは「いきいきげんき」など、キャッチコピー的に市が使いやすいフレーズになるようなものを設定したい。
- 堀越会長 ・すでに、スポーツで「人」を元気にする、スポーツで「まち」を元気にする、スポーツで「未来」をつくる、と３つの基本方針をうたっている。
- ・これらを統合するようなものになると良い。
- 堀越会長 ・すぐに思いつくようなものではないと思うので、意見がないようであれば次回までにじっくりお考えいただきたい。

第２期計画における検討テーマについて（資料４）

- ・事務局より資料４を説明。

- 堀越会長 ・ ～ の４つの検討テーマを提示いただいた。若者や子どものスポーツに関連する と 、地域の活性化に関連する と ということ、大きく分けると２つに分かれるかと思われる。
- ・これらの点について、アイデアがあればご提示いただきたい。

- 三井委員
- ・スポーツの機会づくりについては、いかにスポーツが楽しいと感じられるかがポイントになると思う。
 - ・体育協会では、公益財団になったときに、市内の競技団体のお世話だけでなく、市民スポーツの振興を図っていくことも活動の柱にした。
 - ・協会の自主事業として、小学生駅伝競走大会、ハーフリレーマラソンを開催している。小学生駅伝は任意のチームを編成して参加してもらう。実に様々な仲間と走ることを楽しんでいる。また、親も楽しくやっている。
 - ・ハーフリレーマラソンは、4人以上10人のチームで20kmを走る。これも楽しみながら走る機会となっている。競技大会というよりも楽しみながら走る大会となっており、仲間や職場での参加が多い。スポーツを通して仲間を増やしていくことがスポーツ参画人口の拡大につながる。
 - ・とっかかりやすいイベント、誰でもが参加できる種目を考えていくことが一番である。女性や子育て層についても子どもがスポーツをしていれば、親も支えるという立場でスポーツに携わることができる。スポーツに無関心な人も仲間から声をかけられればやる。
 - ・FCマルヤスがスポーツを通じてまちの活性化に取り組んでいきたいとの意向を示している。城西高校のサッカー部との交流はとてもいい活動だと思う。
 - ・「仲間づくり」、「とっかかりやすいことから」といった点をできるだけ広く市民に知ってもらうことも必要である。市政だよりや体育協会、スポーツ推進委員会連絡協議会でも情報誌をつくっているの、一般市民対象に情報提供していく必要があると思う。
- 堀越会長
- 杉山委員
- ・家族参加のスポーツは地域の活性化にもつながる。
 - ・ビジネスパーソンについては、時間的に余裕がない。7日間開放している施設であっても都合のよい時間帯は選択肢が少ない。環境が整っていない。一つにはそうした環境を改善していく必要がある。
 - ・女性や子育て層について、私の地元にママさん中心のチームがある。お互いに子どもの面倒を見合いながら練習している。そうした姿も参考になるのではないかな。
 - ・無関心層に関して、先日、スポーツ推進委員の研究大会があり、そこではスポーツが好きではない人にとっては、体を使うことだけがスポーツではないという報告があって共感した。eスポーツをきっかけに軽微なスポーツを始めて、徐々に自分に合ったスポーツに取り組んでいくという報告であった。スポーツを始めるきっかけとして有効ではないかと感じた。
 - ・子どものスポーツ機会については、地元でスポーツクラブを立ち上げたところである。年齢も性別も関係なく、スポーツが苦手な人も入って楽しんでいた。クラブである。無理にフィジカルスポーツに参加させるのは逆効果なので、身近な気軽なスポーツに取り組んでもらうことが良いと思っている。
 - ・小学校の部活動は短くなってきた。「地域主導のスポーツイベントに誘っていただくことは非常に助かる」と校長先生からは言われている。地域には専門的にスポーツ指導いただける方はいる。ボランティアで協力してもらって、地域

でスポーツイベントに取り組んでいくことも効果的であると思う。

土赤委員 ・三井委員のご発言にあったように、市民に知ってもらうことは大事なと思う。SNS を使ってイベントや観光スポットなどの情報発信していくことが必要である。世界の人が見て、岡崎っていいなあ、岡崎に行ってみようとなる可能性もある。

・インスタなどを使いながら情報発信すると、無関心層にも見てもらえる。関心を上げられると思う。

・子どものスポーツ機会については、具体的などころでは、ボール投げができる公園が少ない。身近なところでボール投げができる公園を整備できないか。東京の武蔵野市では、ボール投げができる公園が整備されたと聞く。公園に専用施設をつくると、子どもたちのスポーツ機会の充実につながる。

・乙川の河川緑地。できれば皇居のようにウォーキングコースができて、シャワールームや更衣室ができると楽しめる。駅にも近い。スポーツのとっかかりとしては非常に取り組みやすいのではないかな。

上原委員 ・スポーツを競技スポーツだけでとらえるのではなく、広い意味のスポーツ、競わないスポーツを含む概念としてとらえる。そうした考え方が今回の計画の大事なポイントの一つになる。

・競技スポーツとして、岡崎市では駅伝に歴史があるが、競わないスポーツで楽しむことも一つの柱になってくる。

・若者はダンス、スケートボードに関心があっても、遊び場がなくてという声もよく聴く。こうしたスポーツも表に出していくと良い。

・食べながらマラソン、あるいは写真撮りながらマラソンなど、楽しんで走るマラソンを観光や遊びとあわせて取り組めると良いのではないかな。

・遊び場の問題についても、広く調査した訳ではないが、キャッチボールができる公園や大声出せる公園がほしいという声を聴く。きっちり整備されてなくてもいい。既存の公園でも可能性はあるはず。

・トップアスリートの関係では、アスリートが臨時のコーチになるといった取組はよくある。一緒にプレーするかたちの活動があってもよい。ゴルフだとハンディキャップでプロと素人が戦える。トップアスリートと市民が真剣に戦うような機会があると親しみがわき、応援もしたくなるのではないかな。上から教えてもらうのではなく、そういった機会があると良いのではないかな。

・体育の授業に取り入れるなども良い。小学生がハンドボール選手とゲームしたという例もある。その中で、トップアスリートはあえて教えない、ただただ試合をするだけ、そうしたら、子どもたちは作戦を自分たちで考えるようになる。世代や競技レベルを超えて対等に一緒にやることが良いと思う。

・地域の活性化の視点では、山間地に大きな可能性があると思う。「岡崎の菅平」を作れないかなと思う。新しく作ることは難しいが、岡崎に「第二の菅平」と呼ばれるようなものができるといい。

堀越会長 ・一巡したが、さらにご意見があれば。

三井委員 ・安城のホームチームサポーター事業が参考事例として掲載してあるが、こんな

ことができると良い。岡崎出身のアスリートがこんなに頑張っているという姿を見せることで、それを見てスポーツしようというきっかけにもなると思う。

・総合型地域スポーツクラブにも、市民にもっとアピールする形のスポーツクラブがあっても良い。そこで活躍している市民をアピールしていく。

・市内のバレーボールチームに声をかけて、トップチームの練習を見せてもらう、あるいはプレ大会でほかのチームを呼んで試合をするとかして、岡崎にトップ選手がいることをアピールすべき。

・バレーボールの石川兄弟のことを岡崎市民が全員知っているかといえばそうではないと思う。ラグビーWCがあったので田村選手は知られたが、WCがなかったら知らなかったかもしれない。そういった選手をとおして岡崎のスポーツはこうなんだとPRできるような、スポーツ誌などを発刊していただくと広がっていくのではないか。

・アジア競技大会の開催は、地域活性化のチャンスでもある。市民の皆さんに、情報提供していくことが必要かと思う。

堀越会長 ・安城市の取組は、市内のトップチームを総合的に応援しようとする取組であり面白い事業である。

上原委員 ・ビジネスパーソンについて、この人たちはまとまって時間を取ることができない方々である。NHKの番組で紹介していたが、“ながら運動”というものに視点を当ててみてはどうか。これも運動したことにカウントできる。

・つま先やかかとで歩くとか、座ったり立ったりするときの姿勢を少し変えるだけで運動効果があると言われている。そうしたこともアプリ等を活用して普及させていくことも可能であると思う。

・60歳を過ぎてマスターズの大会に出ている人が、こうした“ながら運動”を普段のトレーニングに生かしている。“ながら運動”でも競技力を維持できる。

・スポーツ推進の本来の目的には健康づくりがあるので、ちゃんとしたプログラムを紹介すればながら運動でも運動としてとらえることができると思う。

土赤委員 ・スポーツによる地域の活性化に関して、「アーチェリーのまち岡崎」といった紹介があるが、私は「ウォーキングのまち岡崎」も提案したい。全国に「ウォーキングのまち」はないのではないか。

・市内には、八丁味噌、歴史、観光素材を含めて、健康の素となるものがある。そういった素材を活用して「ウォーキングのまち岡崎」とすることでまちが活性化していくことにつながるのではないか。

杉山委員 ・岡崎市では、スポーツレクリエーション祭を毎年開催している。7種目のレクリエーションスポーツを設定して参加してもらっているが、一部を体験していただくコーナーも設けてある。

・スポーツラリー方式で、一日で何種類も体験していただくことで自分にあったスポーツを見つけて取り組んでもらう。そういう取り組み良いのではないかと思う。

堀越会長 ・皆さんから多くのご意見をいただくことができた。各世代へスポーツ機会を提供していくことについては、仲間づくり、コミュニケーションづくりしながら

進めていくことが非常に大事であるという意見をいただいた。

- ・ビジネスパーソン向けには 24 時間ジムやジョギングに銭湯開放が行われたりしている。

- ・“ながら運動”の話にも関係するが、歴史まちづくり、重要文化財を見に行く行事と併催にして駅伝やウォーキングに取り組むようなこともアイデアとしてはある。併催行事に参加したら、気がついたらスポーツしていたようなことでも良い。

- ・部活動に代わるスポーツクラブやトップアスリートやチームをどのように育てていくかについても重要であると思う。

- ・写真を撮りながらのインスタツリーリングなど面白いと思う。

- ・公園の中には、ボール投げだけでもできる公園ができると良い。

三井委員

- ・子ども広場でもボール遊びができないところがある。禁止されている時代である。昔のように田んぼの中を走り回ることもないので、身体を動かす機会が減っている。

- ・その意味では、河川敷は何かができるのではないか。

堀越会長

- ・乙川のプロジェクトが平行して動いているので、整合性をとりながら、こちらからは提案していけばよいのではないか。

- ・検討テーマについてご意見はいただけたかと思う。

3. その他

計画第2章について

事務局

- ・計画の第2章部分（現行計画のふり返し部分）については、現在作成中であるため、でき次第資料を送付させていただく。

今後のスケジュールについて

事務局

- ・次回委員会は東京オリンピックの前後で開催を考えている。7月上旬または8月の中下旬を目標にして、計画の一通りの案を提示する予定である。

- ・その後、庁内で意見徴収・調整した後、1ヶ月のパブリックコメントを行い、その意見を反映させていただいた上で最後の策定委員会を開催したい。開催時期は年末または年明け早々を考えている。

4. 閉会

（10時40分 閉会）